## サービス評価結果表

# サービス評価項目 (評価項目の構成)

- I.その人らしい暮らしを支える
  - (1)ケアマネジメント
  - (2)日々の支援
  - (3)生活環境づくり
  - (4)健康を維持するための支援
- Ⅱ.家族との支え合い
- Ⅲ.地域との支え合い
- IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価! ステップ 外部評価でブラッシュアップ!! ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

	274781 (B10/40/48-0) -
評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年8月18日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	17
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。( $\bigcirc$ =1  $\bigcirc$ =2  $\triangle$ =3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3890500030									
事業所名	グループホーム下の茶屋									
(ユニット名)	モクレン									
記入者(管理者)										
氏 名	筒井房代									
自己評価作成日	令和2年 8月 1日									

### [事業所理念] ※事業所記入

「美顔・感謝・交流」を理念に掲げ 日々の生活の中でお互いに欠けては ならないものとして意識を高め、安心して 生活ができる様支援している。

#### [前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果] ※事業所記入

「利用者一人ひとりについて職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している」 アイデアシートに関してはケアブラン更新時に見直しを行っている。日常的な変化や気づきに関しては 申し送りで伝えたり申し送りシートへの記録を行っている。

「重度化や終末期への支援」 今年に入り看取りを行った際、医師・看護師・家族との話し合いを行い方針を決め支援を行うことが出来た。 家族の思いに寄り添った支援を行ったことで、「ここで看取ってくれて良かった」と感謝の言葉を頂くことが出来た。

「カギをかけないケアの取り組み」 利用者さんの希望に添い「外に出たい」と訴えがあった際には一緒に出れる様努めた。

#### 【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】

COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、外出の機会が減ったため、室内で楽しむ機会(ボウリングやそうめん流し、スイカ割り)を増やした。

COVID-19感染予防のための行動自粛期間中、利用者から「靴が欲しい」と希望があり、職員が靴のカタログを用意して 運んでもらい、購入のサポートをした。可愛い靴を購入できたと喜ばれたようだ。

毎朝、職員がコーヒーメーカーでコーヒーを淹れており、居間全体にコーヒーの香りが広がる。「いい匂いね」と言う利用者もいるようだ。

【実施状況の評価】

					『他状況の評価』 よくできている ○ほぼできている △時々	できて	いる	×I	まとんどできていない
項目 No.	評価項目	小項	内 容	自己評価				外部 評価	
_	の人らしい暮らしを支える	B		БІІШ	<u>:</u>	В Г ІМА	вт іш	ВТ ІШ	<u> </u>
(1)4	ケアマネジメント								
		a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	0	日常の生活の中で行きたい所や食べたいもの を把握し支援できるよう努めている。	0		0	入居後に利用者から得た情報は、アセスメントシート・フェースシート(気づきアイデアシート)に記入しており、半年ごとや介護保険の見直し時期に見直している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	0	家族の方に話を聞き出来るだけ本人の 思いに沿えるよう話し合いをしている。				
1	思いや暮らし方の希望、意向の 把握	С	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	0	家族や友人などの知人が来られた際に 話を聞かせてもらっている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための 記録をしている。	0	利用者ごとに情報を整理しファイルに 収めている。				
		е	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落 とさないように留意している。	0	利用者の思いを一番に考えれるようにしているが、自分から考えを伝えることが難しい人はその人にとって何がいいかという視点でスタッフが考え話し合っている。				
		а	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	0	入居時に居宅のケアマネや家族から情報を 伺いアセスメントシートなどに情報をまとめ、 本人についての情報が分かる様にしている。			0	入居時、本人・家族から聞いた、生活歴・学歴・職歴・ 趣味等の情報を、アセスメントシートに記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	0	日常の中でお手伝いをお願いするなど、 その人の持っている力を把握している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	С	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	0	毎日記録を付け申し送りシート等活用し不穏状 況等、日勤帯から夜勤帯へと申し送りをすること で1日の流れや利用者の変化を把握できるよう にしている。	:			
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握 に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のか かわり等)	0	不安や不安定になっている時にはその時にス タッフ間で話し合っている。特に普段と様子が違 う時は生活記録とは別の用紙に記録している。				
		е	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活 の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握し ている。	0	生活の様子を毎日記録している。 1日の食事量や排泄量も記録し1か月ごとにま とめている。				シロ本 い命せんご 人徒 、 の際 、 いまは 「エス の子の
		a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としている のかを本人の視点で検討している。	0	本人や家族の方から情報をもらい、 その人がどのように生活したいのかを 考えている。			0	利用者や家族から「介護への願いや要望」「私の不安 ・ や悲しみ」などについて聞き取り、「施設サービス計画 書」「記入しておき、サービス担当者会議時は、その 情報をもとにして歌員で検討している。利用者も会議 に「参加することがある。
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみなら ず本人・家族・本人をよく知る関 係者等を含む)	b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検 討している。	0	定期的にアセスメントを行っている。 大きな変化があった時には、スタッフ間でその 都度話し合い必要な時は支援内容の変更を 行っている。				المراجعة الم
		С	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	0	モニタリングシートを付けることで検討した支援 が行われているか記録している。 その中で新たな課題が出てきた時はそのことに ついても話をしている。				
		а	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	0	今までの生活の流れを確認し、本人や家族の話を聞いて ブランを立てるようにしている。本人の意思確認が難しい 時は家族やスタッフの意見を参考に生活の中での気づき を大切にしながらブランを立てている。				サービス担当者会議で検討した内容を計画に反映し
4	チームでつくる本人がより良く	ь	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり 方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成してい る。	0	家族の話やスタッフの意見を参考にプランを 作成している。	0		0	ている。 骨折により筋力低下がみられる利用者について、「安全に暮らしたい」との本人の希望を踏まえ「下肢を強化して転倒を防ぐこと」を目標に挙げている事例がみ
·	暮らすための介護計画	С	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮ら し方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	0	歌が好きな人に対してはみんなで歌を歌った り、会話が難しくてもコミュニケーションが 取れる様話しかけている。				6 <i>h1</i> c.
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体 制等が盛り込まれた内容になっている。	Δ	地域で行われる文化祭やイベントには 積極的に参加するようにしている。				
		а	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、 職員間で共有している。	0	プランはスタッフが話し合って作成し、 全員が把握できるよう回覧し、印鑑を押している。 ケアブラン一覧表も作成している。			0	ユニット会やサービス担当者会議時に介護計画について話し合っており、新たに作成した介護計画書は回覧して共有している。
5	介護計画に基づいた日々の支	ь	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、 日々の支援につなげている。	Δ	ケアプランの達成の有無をモニタリングシートに 〇×形式で毎日記入している。			0	入している。その結果どうだったかについては、生活 記録に短期目標の番号とともに記入している。
J	援	С	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・ しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体 的内容を個別に記録している。	0	利用者個人ごとの生活記録に記載している。			Δ	生活記録に支援したことを記録しているが、介護計画に基づいた内容という点からは記録量が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、ア イデア等を個別に記録している。	0	気づいたことはスタッフ間で話し合いをしている。アイデアを実行することもあるが小さなこと は記録に残していないこともある。			Δ	申し送りノートに記録しているが、記録量は少ない。
_		_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	0	計画の期間ごとに見直しを行っている。 状態が大きく変わった時には期間が終了する 前でも担当者会議を行い見直しを行っている。			0	計画作成担当者が、介護保険期間及びケアブラン作成期間を一覧表にしており、半年ごとに見直しを行っている。
6	現状に即した介護計画の見直 し	ь	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は 現状確認を行っている。	Δ	利用者の状態を伝えるため毎月家族に お便りとして利用者の現状を送っている。			0	毎月、担当職員が個別に現状シート(食事・排泄・清潔・移動・睡眠・コミュニケーション・その他)を作成し、現状確認を行っている。
			本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	0	入院怪我等で変化があれば状況に応じ、 ブランの見直しを行い家族に相談している。			0	骨折して入院した利用者について、退院時に計画を 見直している事例がみられた。
		a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	0	毎月ユニット会を開催しその時に話し合いをして いる。緊急時にはその都度話し合いをし、その 内容をまとめその場にいないスタッフにも目を通 してもらっている。			0	:月に1回ユニット会を行い、会議録を作成している。 緊急案件がある場合は、申し送り時や当日の勤務職 員で話し合い、申し送リノートに記入している。 (COVID-19感染予防のため現在は、ユニット会は中 ・止)
7	チームケアのための会議	b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率 直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や 場づくりを工夫している。	0	話をしやすいよう管理者が進行をし、それぞれ の意見を話している。話がずれてしまうことも ありその時は修正をしている。				<b></b> /
	, =,, 0,000 212	С	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの 職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫してい る。	0	遅出・夜勤のスタッフ以外は出来るだけ会議に参加出来るよう促している。場合によってはユニットのフロアを利用し全員参加できる様にしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容 を正確に伝えるしくみをつくっている。	0	話し合った内容についてまとめた資料を作成 し、全スタッフが確認し、印鑑を押している。			0	会議録は、全職員に回覧しており、個々に確認したら 押印するしくみをつくっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	а	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的 に検討し、共有できるしくみをつくっている。	Δ	話し合ったことなどは議事録や資料を回覧・ 配布しているが、確認が遅れるスタッフもいる。				情報伝達は必ず書面で行うことにしており、職員は、 出勤時に必ず目を通すことになっている。 家族からの伝言は、業務日誌の家族との連絡欄に記 入している。
	NEXTO TOLE // INTRIALE	b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全て の職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援 に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	0	毎日日勤から夜勤への申し送りをしている。利 用者個人のことや業務にかかわることを業務日 誌や申し送りシートに記入している。御家族との 連絡事項欄も設けている。	0			
(2)	日々の支援								
		а	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それ を叶える努力を行っている。	Δ	自分の思いを伝えられる利用者が少なく、 スタッフが主導して何かを行うことが多い。				昼食時、職員はコロッケにかけるソースと醤油を用意
		ь	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する 機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつく る、選ぶのを待っている等)	Δ	レクレーションの内容や出かける場所など スタッフ側で決め声をかけることが多い。				して、個々に聞きながら掛けていた。 「テレビをつけましょうか」「お茶入れましょうか」「温か いのと冷たいのどっちがいいですか」など、その都度 希望を聞きながら支援していた。
9	利用者一人ひとりの思い、意向	С	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	Δ	自分の思いを伝えられる方は出来るだけその 思いに寄り添えるようにしているが難しい方は 職員側で考え対応している。				職員は、現状について「利用者のことを職員で決めて しまうようなことがある」と聴じている。職員が気付い たことはケアの質向上への最大の起点でもある。利 用者が選んだり決めたりする機会や場件りについて、 さといこどのように支援できるかを職員で話し合う機会
	を大切にした支援	d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひ とりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。 (起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・ 長さ等)	0	利用者個人の食事ペースに合わせ配膳の時間 を変えている。入浴などはある程度の順番を決 めその日担当のスタッフが声をかけている。				とのにこのように文技でさるかで「戦長で品しょうが成立 にしてほしい。
		6	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うる おい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしてい る。	0	利用者が話しやすいよう声掛けや表情に 気を付けている。			0	テーブルを拭く利用者に、職員は「ありがとう」などと 言葉をかけていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない 場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしな がら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援し ている。	0	コミュニケーションをとり表情に注意しながら 短い言葉で伝えるなど、本人の意向に添える 様にしている。				
		а	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	Δ	それらの研修に参加し、勉強会や資料を配布している。 スタッフによってはロ調が強く聞こえてしまう時もある。	0	0		法人研修に参加した職員がユニット会時に伝達講習 を行っている。 昼食後、職員は利用者の隣に座って、視線を合わせ 穏やかに会話をしていた。
	一人ひとりの誇りやプライバ	Ь	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前 であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮 しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行って いる。	Δ	日常で利用者の状況についての申し送りや 排便状況などを話す際にフロアで話してしまう こともある。			Δ	職員は、利用者に声をかけて確認をしてから関わって いたが、声の大きさについては、時に配慮が必要と感 じるような場面があった。
10	シーを尊重した関わり	С	職員は、排泄時や入浴時には、不安や蓬恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	0	下着の確認などは一度お部屋に呼ぶなどして 人目に配慮している。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバ シーの場所であることを理解し、居室への出入りなど 十分配慮しながら行っている。	0	入室時はノックをして声掛けを行う様にしている。掃除や衣類収納時には事前に声掛け してから入るようにしている。			0	入室時はノックをしてから入室していた。
		е	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏 えい防止等について理解し、遵守している。	0	職員間で利用者の情報交換をしているがその 時に大きな声にならないように気を付けている。 又、個人情報を外部に漏らすことがない様厳しく 周知している。				
		а	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利 用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝 し合うなどの関係性を築いている。	0	レクレーションなどでスタッフが知らない歌を 教えてもらっている。お手伝いを引き受けて くれた時にはお礼を言っている。				_
11	ともに過ごし、支え合う関係	b	らしていてことの人切さを理解している。	0	利用者同士でもコミュニケーションが取れる ように関係性を見て席の配置を決めている。				
	こ いっぺこし、又んロ /   対   ボ	С	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立した りしないよう、利用者同士が問わり合い、支え合えらうな文献 努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立し がちな利用者が安しなる機会を作る、世話役の利用者にうまく力 を発揮してもら予備面をつくる等)。	0	仲の良い人やお話の好きな人が近くの席に 座れるように配慮している。			_	仲の良い利用者同士が同じテーブルになるよう配慮 したり、意思疎通が難しい利用者には、職員が隣で他 の利用者とのコミュニケーションの橋渡しをしている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその 解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生 じさせないようにしている。	0	大声を出したり、そのことにより不安になる人がいるときには気分転換に散歩に出かけるなど 雰囲気を変えるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	0	入所の際に家族の方に話を聞いている。 他にも尋ねてきてくれている人から聞き取り 把握している。				
12	馴染みの人や場との関係継続	b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係 や馴染みの場所などについて把握している。	0	本人や家族の方から話を聞いて情報の収集に 努めている。以前公民館の掃除をしていたこと など地域の方より情報を頂いている。				
12	の支援	С	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出か けていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所と の関係が途切れないよう支援している。	Δ	個人で外出し知人と会うことは出来ていない。 友人から電話がかかってくることはあり、その時 は本人に伝えて電話で話をしてもらっている。				
		d	<b>ā</b> .	0	家族や知人の方たちが来られた時は 気持ちよく挨拶を行い、ゆっくりと過ごして もらえるよう利用者の部屋へお連れしている。				
		a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう。一人ひとり のその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでした。 、電具側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き 先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	Δ	天気の良い日は少しでも外に出れる様気を付けているが業務に追われ出来ていないことも多い。 散歩についても元気な人が優先気味になっている。	0	0	0	計画を立てて、動物園(高知県)や季節の花を見に出 かけたり、外食したりできるように支援している。 COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、遠く への外出は中止して、敷地内の散歩を支援した。今 年6月には、紫陽花や蓮の花を見に出かけた。
13	日常的な外出支援	b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力 も得ながら、外出支援をすすめている。	0	タ涼み会等、行事の際には地域の方に協力を 得ている。通常の外出時にはスタッフで対応 している。				・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		С	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組 んでいる。	Δ	車椅子の方でも近くの遊歩道まで気分転換 出来るよう気を付けている。			Δ	季節の花を見に出かけたり、近所を散歩したりできる ように支援しているが、機会は少ない。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように 支援している。	0	季節に合わせ花見に行くなどしているが地域の 方は参加せずスタッフが対応している。 家族の方が協力してもらえる時は、利用者と一 緒に外出されることもある。				
		а	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	0	認知症に関する研修には多くの職員が参加出来るようにしている。不安な行動が続く場合は生活記録とは別に用紙を作り記録を行い原因を探る様にしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る 取り組み	b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・ 平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の 低下・嚥下機能の低下等> を理解し、日常生活を営む 中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	0	毎日ラジオ体操をしたり、出来るだけ歩いてトイ レに行くなど日常の中で持っている力を使っても らうようにしている。歩行訓練も行っている。				アセスメントシートには、「できること」などについての
		С	利用者の「できること、できそうなこと」については、手 や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしてい る。(場面づくり、環境づくり等)	Δ	出来ることは声掛けをしお願いする様にしているが、利用者さんが時間がかかり負担と感じる際にはスタッフが手伝うこともある。	0		0	情報を配入している。 手押し車で、居間から居室に戻ろうとしている利用者 に、職員は「気をつけてね」と声をかけて見守ってい た。
		а	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等 を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番にな るのかを把握している。	0	日常の中でタオルたたみや、トレー拭きなどできることを役割としてお願いしている。歌が好きな 人が多いのでみんなで歌を唄える時間を作れる ようにしている。				COVID-19感染予防のための行動自粛期間は、外出
15	役割、楽しみごと、気晴らしの 支援	ь	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びの ある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽 しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。		その時の状況や様子を見ながらお手伝いなど をお願いし、そのあとは感謝の言葉を伝えてい る。	0	0	0	の機会が減ったため、室内で楽しむ機会(ボウリング やそうめん流し、スイカ割り)を増やした。 午前中は、ラジオ体操や歌を歌う時間をつくっている。 訪問調査日には、職員と一緒に体操をしたり、手を動
		С	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよ う支援している。	0	地域で行われるイベントや行事には出来るだけ 参加しその中で楽しみを持ってもらっている。				かしながら歌を歌ったりしている利用者の様子がみられた。
		а	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、そ の人らしい身だしなみやおしゃれについて把握してい る。	Δ	着脱のしやすさなどに配慮しながら季節に 応じた衣服をスタッフが選んでいる。				
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、 髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう に支援している。	0	散髪は本人や家族の意見を参考にしながら定 期的に来てくれる訪問理容の方にお願いをして いる。服装に関してはスタッフが準備することが 多い。				
		С	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えた リアドバイスする等本人の気持ちにそって支援してい る。		他のスタッフにも意見を求めたりするなど その人の立場になって支援できるよう努めて いる。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らし い服装を楽しめるよう支援している。	0	服装はスタッフが選んでいることが多いが、 時期や行事に合わせてその人に会う服装が 出来るようにしている。				昼食事時、おしぼりを用意しており、利用者が自分で
		8	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさり げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼ し、口の周囲等)	0	手が動きにくく食べこぼしが出る人などは食事 中エプロンなどを着用させてもらっている。食後 も汚れが残らないようおしぼりで拭きとってい る。	0	0		口の周りを拭いたり、職員が食べこぼしをさりげなく拭 いたりしていた。
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	家族の希望で美容院に行かれたこともあるが家族 が遠方であったり、ADLの低下に伴い家族との外出 は難しくなっている。家族の理解も得て訪問美容の 方にお願いをしている。				訪問美容師を利用する際には、職員が本人に髪の長 さなどの希望を聞いておき、訪問美容師に伝えてい る。
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保 てるエ夫や支援を行っている。	0	体型や状態に合わせて服を選んだり靴の購入 をしている。カタログなどを見て業者に合わせに 来てもらい本人の好みから選んでもらえる様支 援している。				00 COVID-19感染予防のための行動自粛期間中、利用 者から、靴が欲しい」と希望があり、職員が靴のカタロ グを用意して選んでもらい購入のサポートをした。可 愛い靴を購入できたと喜ばれたようだ。

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価		家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解 している。	0	利用者に応じて食材をカットしたり盛り付けを変えている。その中で見た目が変わることもあるが食べやすいように配慮している。全介助の方には偏りがないように口に遺んでいる。				普段は、配食サービスを利用しており、決まった献立
		ь	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利 用者とともに行っている。	Δ	法人の方針で業者から食事が届くため盛り付けはス タッフが行っている。手作りクッキングの日には参加 出来る利用者には食材のカットや具材を混ぜるなど のお手伝いをお願いしている。				言なは、配良り一と人を利用してあり、次よりに配立 で食事が届く。 主食と汁物は事業所で職員が作っており、料理が得 意な利用者は、汁の具材を切ったり、味噌を溶いたり しているが、かかわる利用者は限られている。
		С	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	Δ	手作りで食事を提供する機会を設け、野菜カット等で出来ることはお願いしているが、利用者の足腰の状態もあり普段はコップ洗いなど短時間で終わるものに限定している。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	0	食事では出来るだけ偏りのないように声かけを しているが、本人の意向に任せて残されること もある。おやつは各々の好みに合わせて変える こともある。				
		•	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	0	手作りクッキングでは夏場なら素麺、冬場では鍋な ど季節に合うものを作っている。スタッフや家族の方 が季節の野菜を持ってきてくれる事もあり、その時は 調理し通常の食事に加えて出している。				配食サービスを利用しているため献立は決まってお リ、利用者の好みなどを反映させることは難しい。 月一回の手作りクッキングの日は、利用者の希望の もの(焼きそば、ナポリタンスパゲッティなど)を一緒に
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・ 下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おい しそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー 食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	0	硬そうなものや食べにくいものは予め ーロサイズに切るなどして盛り付けを 行っている。				作っている。
17	食事を楽しむことのできる支援	g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	0	食器はその人の力に合わせて陶器の器やブラス チックの軽い器を用意している。お箸も利用者さんに 合わせ準備している。汁用のお椀も取っ手付きの コップを用意している。			0	茶碗、湯飲みは事業所にある物の中から本人が気に 入ったもの、持ちやすいものを選んで使用している。 利用者の状態によっては取っ手の付いた軽いコップを 使用していた。自分用のコーヒーカップを持ち込み使 胆オン 1 よい 2
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べな がら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ 方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげな く行っている。	0	介助や声掛けが必要な方の隣に座り職員も一緒にご飯を食べている。 食べやすいようお皿の位置を置き換えたりサポートしている。			0	用する人もいる。 職員は、利用者の隣に座り、同じものを食べながら、 サポートしたり、食事介助を行ってから食事をしたりし ていた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話など を通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	Δ	フロアに隣接した台所で準備を行っている。 普段は盛り付けるだけだが、手作りケッキング の日はフロアの机にホットプレートを用意し一緒 に作ったりもしている。	0		0	昼食前には口腔体操を行い、「いただきます」と挨拶を してから食べ始めていた。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や 栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確 保できるようにしている。	0	1日分の食事・水分量を記録に残し管理している。 水分がとりにくい時は状態に応じ牛乳やスポーッドリンクなど種類を変えて出している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等 工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	0	食事が十分に摂れていない利用者には エンシュアなどの栄養補助食品を出している。 水分でむせる利用者にはとろみをつけている。				
		ı	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的 に話し合い、偏りがないように配慮している。場合に よっては、栄養士のアドバイスを受けている。	0	定期的に食事検討委員会が開かれ 食事の感想などの意見を出している。			0	月に1回、栄養土も同席する法人全体の食事検討委 員会時に、管理者や職員が参加して話し合っている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生 管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	0	検品表とともに搬入された食材は指定の 方法で保存している。食事前、食後には 机の消毒をしている。				
		а	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながること を知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解してい る。	0	研修に参加し職員全員で知識を共有出来る ようにしている。				在 1 回 計開告社 匠 大利田 李 4 月 4 参 イ / 4 イ ケ リー
		ь	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、 義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	0	口腔ケアの時に隣に寄り添い見守り、声掛けを 行うようにしている。 歯科協会による利用者の歯科検診を行った。			0	年1回、訪問歯科医が利用者全員を診てくれており、 報告書で口腔内の状況を把握している。 異常があれば、受診につなげている。昼食時、職員 は、「歯が痛い」という利用者の口腔内を確認し、訪問 適料医へ電話連絡して受診できるよう支援していた。
1.9	口腔内の清潔保持	С	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	0	訪問歯科協会の方から正しい口腔ケアの方法 が書かれたポスターを頂き、それをフロアに掲 示している。				
10	一 ルエドコマン 行 (本) (本) 可	d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	0	食事の後は声掛け・見守りで口腔ケアを行い、 毎晩洗浄液に浸けて消毒を行っている。				
		•	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが 生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎 症のチェック等)	0	口腔ケアを自分で行える方は自分でしてもらい、難しい方や介助が必要な方は職員が支援 を行っている。ポリデントやマウスウォッシュも利 用している。			0	毎食後、口腔ケアを支援している。 昼食後、利用者を洗面台に誘導して、「歯を外して」 「ここに入れて」など、ひとつ一つの動作を伝えながら 支援していた。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	0	歯痛や義歯の不調の訴えがある時には 訪問歯科のDrに相談し治療や調整をして もらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツパッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	Δ	出来るだけトイレ内で排泄できるよう支援して いるが間に合わない方が増えているので 紙パンツの使用者が増えている。				
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解して いる。	0	便秘からくる体調不良に気を付け排泄チェック 表から確認し排便がない利用者にはマグミット などで排便コントロールを行っている。				
		O	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	0	24時間の排泄チェック表により個々の状態や 変化を把握できるようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	0	本人による訴えや時間やタイミングを見ながら のトイレ誘導、日中・夜間のパット使用について も職員間で話し合いをしている。	0		0	排泄チェック表で排泄パターンや状態を把握し、必要 時には、その日の動務職員で話し合い見直している。
19	排泄の自立支援	е	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	0	声かけによる意図が伝わりにくいこともある ため、その方には長めに座ってもらい腹部の マッサージをするなどして排泄を促している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	0	単にトイレに誘うのでなく歩行練習などを行い その帰り道トイレ前で声をかけるなどしている。				
		g	おむつ(紙パンツ・バッドを含む)を使用する場合は、職員が 一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのような のを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人 の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	0	紙パンツに変更する際は家族に相談している。 ホームのおむつ類の使用は家族と話し合い ホーム側で用意したり、家族が選び持参してい る方もいる。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙 パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	0	本人や家族と話合い状態に合わせてパットの 種類・使う時間について適時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態 に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行って いる。(薬に頼らない取り組み)	0	定期的な水分補給に加え排便が難しい利用者 には腹部のマッサージを行っている。				
		а	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用 者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支 援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	Δ	定期的に入浴が出来るよう予めホームで 入浴予定を決めている。 入浴時間・温度など一人一人の希望や思いに 合わせ支援している。	0		0	週2~3回入浴できるように支援している。 湯温や長さの希望は職員が把握しているようだが、そ の都度、希望を聞いて対応している。 浴室の入口には「ゆっくりしてね」と書いてある暖簾を
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	0	入浴剤を使用し、一人一人のペースに合わせ 気持ちよく入浴できるよう心がけている。 車椅子の利用者はシャワーチェアを利用するが 二人介助で浴槽に入ってもらうこともある。				かけている。 希望があれば入浴剤を入れている。冬至には、ゆず 湯を用意している。
20	入浴を楽しむことができる支援	С	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援 している。	0	声掛けにより本人の出来る所はお願いし 見守り支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解して おり、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫し ている。	0	拒む理由を探り違う職員で対応してみたり 時間を置くなどしている。 利用者がその気分にならない時は入浴を 見合わせることもある。				
		е	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否 を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	0	入浴前に血圧・体温を測りその日の体調を チェックしている。 入浴後は水分を取り様子を見たり、居室で 休まれる方もいる。				
		а	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	0	日々の睡眠状態やパターンを把握している。 前日の夜間の様子・日中の様子など生活記録 申し送りにより情報を共有している。				
21	安眠や休息の支援	b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人 本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整え る工夫や取り組みを行っている。	0	無理に寝てもらおうとせず眠りに繋がる 声掛けをしたり眠くなるまでフロアで過ごして もらている。温かい飲み物を飲んでもらうなど 安眠に繋げている。				
	NOW Y PINES Y ALE	c	腰眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではな く、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来 事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しなが ら総合的な支援を行っている。	0	日中活動や関わり方を工夫し薬剤に頼らない 支援を心がけている。			0	薬剤を使用する人については、日中や夜間の様子、 睡眠時間などを報告して、相談しながら支援してい る。
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう 取り組んでいる。	0	午前午後と部屋で休む時間を作っている。 本人の希望があればお昼寝の時間を長くする が夜間の睡眠に響かないよう気を付けている。				
		а	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のや り取りができるように支援をしている。	0	電話を掛けたいと希望される方は家族の方の 意向も確認し時間帯を見て話が出来るように 支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつ けず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行って いる。	Δ	字を書くことが難しい方や会話が難しい方には促し や手助けが出来ていない。暑中見舞いや年賀状な どはホームで準備し一人一人に声を掛け名前やメッ セージを書いてもらっている。				
22	電話や手紙の支援	С	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	0	希望があれば電話を取り次いでいる。 電話で話をしている時はスタッフが近くで 見守りを行い会話の橋渡しをすることもある。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるよう に工夫している。	0	届いたことを利用者本人にお伝えしたり代読している。家族から届いた手紙は保存しその利用者の部屋に飾っている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力 をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれる ようお願いしている。	0	本人が電話をかけることに家族は理解・協力がある。家族より電話・はがきや母の日など季節の行事の際に贈り物が届くことがある。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や 大切さを理解している。	0	手元に財布を持ち使うことが無くても 外出の際にポケットに入れ出かける方もいる。 手元に財布があることで安心していられること があると理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使 う機会を日常的につくっている。	×	以前は買い物に出かけていたが足元が悪く 現在は出かけていないことが多い。				
22	お金の所持や使うことの支援	c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日 頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行って いる。	×	利用者と一緒に買い物に出かける機会が 減っている。				
23	の並の別付や使うことの文技	d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと 一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら 一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使え るように支援している。	Δ	管理が困難な方が多く、買い物の際は 家族より預かっていることを伝え職員が 対応・支援している。				
		е	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し 合っている。	0	所持はホームで預かってほしいと希望される 家族の方が多く、使い方については本人や 家族の了解を得たり、話し合いをしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理 方法や家族への報告の方法などルールを明確にして おり、本人、家族等の同意を得ている。(預り金規程、 出納帳の確認等)。	0	預り金は事務所で個人ごとに仕分けし鍵を かけて保管し、取り出す際には持ち出し表 に記入し事務所が確認をしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる。		通常時はいつでも来所可能で帰宅・外出・外泊 などされる方もいる。 病院受診など家族の希望を聞いたり、家族に 代わり受診の付き添いを行っている。	0		0	家族との外食や外泊する際には、身支度を手伝っている。家族の希望や都合に応じて、職員が病院受診に付き添っている。
(3)	生活環境づくり								
25	気軽に入れる玄関まわり等の 配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	0	家族の方に毎月送っているお使りを玄関に 貼り来られた方全員が見れるようにしている。	0	0	0	ユニットの入口に、ひまわりの造花を飾ったり、金魚鉢に花を浮かべて飾ったりしていた。事業所便りを掲示していた。
		a	共用の空間(玄関、廊下、展開、台所、倉堂、浴室、トイレ等)は、 家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、熱島-や装飾も家庭 で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁上・千(南)十の飾り ッけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間 等、家庭的な雰囲気をそぐような殺えになっていないか等。)	0	季節感が分かるタペストリーなどを毎月張り替えている。 廊下にはイベントや外出時に撮影した写真を 張っている。	0	0	0	廊下や居間には、ひまわりや花火のタベストリーを 飾っていた。
		ь	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮 し、掃除も行き届いている。	0	ブラインドを時間によって開閉し過ごしやすい 光を取り入れている。 トイレからの臭いに気を付け日中に1度ゴミ捨て に行っている。			0	居間は窓からの採光で明るく、ブラインドやカーテンで 光を調整している。 居間や居室の掃除は毎日職員が行っており、不快な 臭いは感じなかった。
26	居心地の良い共用空間づくり	С	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を 生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工 夫している。	0	生活感のある暮らしを心がけている。 朝はコーヒーを立てゆっくりフロアでくつろいで もらったり食卓に花を飾るなどしている。				2階ユニットの居間のテーブルには季節の花を飾って いた。 毎朝、職員がコーヒーメーカーでコーヒーを淹れてお
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	0	好きな場所で思い思いに過ごせるようソファを 置いたり、いつでも部屋で休めるように 気を付けている。				り、居間全体にコーヒーの番りが広がる。「いい匂い ね」と言う利用者もいるようだ。
		е	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう エ夫している。	0	内部は共有スペースからは見えないように 配慮している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配 慮	а	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている。	0	自宅で使っていたもの、馴染のある物を 出来るだけ持って来てもらうようにしている。	0		0	仏壇を持ち込み、毎日水を換えて手を合わせている利用者がおり、職員は、利用者の体調をみながら必要時に声をかけてサポーしている。ペッドで本を読んだりパズルをしたりする利用者がおり、本人と相談して、居室用の机を購入した事例がある。
		а	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	0	玄関の靴箱のそばには椅子を置き靴の 着脱がしやすいようにしている。 新規に入所した利用者のためにトイレや自分の 部屋が分かりやすいように張り紙などをしている。			0	居室の入り口に名札をつけている。 トイレの電気や洗面所の蛇口は人感センサーで作動 するようになっており、利用者が洗面台に寄りかかっ ・アロシで手を持っている光手が洗むかち
28	一人ひとりの力が活かせる環 境づくり	b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検 討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工 夫をしている。	0	トイレなど分かりやすい表示物を付けたり、 居室の扉を開けのれんをかけ出入りしやすい ようにしている。				て目分で手を洗っている様子かみられた。
		С	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手 に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。 (ほうき、教徒道具、大工道具、園芸用品、糠味の品、新聞・ 雑誌、ボット、急須・湯飲み・お茶の道具等)		新聞・市報・雑誌など卓上に置いている。				
		a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(株)の出入り 1、玄関に選をかけることの弊害を理解している、選をかける 出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心 理的不安や閉塞彦、あきらか、気力の喪失、家族や地域の人にも たらす印象のデメリット等)	0	法人の方針により安全を第一優先にし 玄関には鍵がかかっている。	0	0	×	法人内研修時に、身体拘束について(鍵をかけること の弊害について含む)学んでいるが、法人の方針で、 建物の共有出入り口は開錠しているが、事業所のユ ニット出入り口は電子ロックで鍵をかけている。
29	鍵をかけないケアの取り組み	b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	0	日中の開錠についての考え方や意味・対応策 について説明し家族の方に同意を得ている。				
		С	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理 的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなく てもずむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把 握、近所の理解・協力の促進等)。		法人の意向で玄関に鍵をかけており、家族の方にも説明し同意をもらっている。 外に出たい利用者がいるときは職員と一緒に玄 関先まで散歩に行くこともある。				
(4)	健康を維持するための支援								
		а	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等 について把握している。	0	個々に情報をシートにまとめ職員はいつでも 把握できるようにしている。				
30	日々の健康状態や病状の把握	b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常 のサインを早期に発見できるように注意しており、その 変化やサインを記録に残している。	0	状態を個別に配録し変化やサインに気づいたら 他の職員に報告し変化時の記録を残している。				
		С	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつ でも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適 切な入院につなげる等の努力をしている。		訪問看護が週3回来られている。訪問看護師と かかりつけ医とはいつでも連絡・相談でき異変 時や緊急時には指示・対応をしてもらっている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		а	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう 支援している。	0	入所時にこれまでの受診状況やかかりつけ医 の有無を確認し、体調が悪い時にはかかりつけ 医や訪問看護に相談し指示をもらい対応をして いる。	0			
31	かかりつけ医等の受診支援	b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたか かりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療 を受けられるように支援している。	0	入所前までにかかっていた病院も引き続き受診できるよう支援している。 入所後はそれに加えホームでのかかりつけ医 の定期的な往診を受けてもらっている。				
		С	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の 伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や 家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	0	通際による受診は基本家族が行う事になっているが、無理な場合や説明が必要な場合はスタップが同行する様にしている。病院受診時には受診記録を記入し職員全員が目を通すようにしている。家族への報告も行っている。				
		а	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	0	入院前までの経過や状況を説明出来るよう 記録にまとめている。				
32	入退院時の医療機関との連 携、協働	b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退 院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努 めている。	0	入院中にも経過報告を聞いたり病院関係者と 相談などの情報交換を行っている。また得られ た情報は家族にも報告・共有している。				
		С	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	0	かかりつけ医が定期的に往診に来てくれるので その際に相談・報告をしている。お見舞い・面会 時には看護師に情報を聞かせてもらっている。				
		а	が護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場の の看護職や助問者護師等に伝えて相談している。看護職の 配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、か かりつけ医や協力医療機関等に相談している。	0	利用者の体調の変化、外傷等気づいたことは 必ず訪問看護に相談し看てもらっている。また 医師にも見てもらっている。				
33	看護職との連携、協働	b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間 いつでも気軽に相談できる体制がある。	0	かかりつけ医、訪問看護ステーションとの 協力体制があり何かあった時には24時間 相談が出来るようにしている。				
		С	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が 適切にできるよう体制を整えている。また、それにより 早期発見・治療につなげている。	0	訪問看護は週5回、かかりつけ医は月2回往診に来て利用者の状態を見てもらっている。 24時間いつでも対応できるような体制が整っている。				
		а	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法 や用量について理解している。	Δ	処方箋は個人ファイルに閉じ、最新のものは 持ち出し用の個人ファイルに閉じいつでも 見れるようにしている。それでもスタッフ全員が 薬の内容を把握しているとは言えない。				
34	服薬支援	b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	0	利用者ごとに朝昼夜の個別に分け食後に 1人ずつ手渡し、または口に含ませて服薬の 確認をしている。				
		С	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	0	変化が見られた場合にはかかりつけ医、 訪問看護に相談し必要な調整を行い自己判断 をしないようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過 や変化などを配録し、家族や医師、看護職等に情報提 供している。	0	服薬による状態変化が見られた場合は経過を 記録に残し医師に相談している。また、家族に も報告し医師の判断などを伝えている。家族側 から薬の要望があれば医師に伝えている。				
		а	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、 または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合い を行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	0	入所時に重度化した際の説明をしている。状態 変化に伴い重度化した際にはもう一度説明をし 治療や看取りなど家族の意向を確認している。				
		ь	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけ ではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者 で話し合い、方針を共有している。	0	かかりつけ医訪問看護の協力を得て医療連携 を取っているか家族 の意向を確認し話し合いながら協力体制をとっ ている。	0		0	今年度、初めて看取り支援を行った。利用者の状態 変化がみられるたびに、家族や協力医、訪問看護 師、職員で話し合い、方針を共有して支援した。
35	重度化や終末期への支援	С	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員 の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援がで きるかの見極めを行っている。	0	終末期・看取りについての考えも研修などに 参加し職員で共有している。施設でも看取りは 終末期の方向の1つとして説明しているが現在 モクレンユニットでの看取りには至っていない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や 対応方針について十分な説明を行い、理解を得てい る。	0	出来ること・出来ないことの判断は医師・管理 者・職員間で話し合いをし、そのうえで対応方針 について説明をしている。看取りについても 選択肢の一つとして説明をしている。				
		е	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるため に、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図り ながらチームで支援していく体制を整えている。あるい は、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	0	家族の思いを優先的に考え必要に応じた 支援を行い状態の変化に伴い家族の意思に 変わりはないかの確認をしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、 家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	0	家族の方の心のケアも支援の1つと考え、 しっかりとコミュニケーションを取れるように している。				
		а	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	0	研修に参加し、ユニット会などの場面で発表し 職員全員で知識を共有している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が 、感染症が発生した場合に連やかに手順にそった対 応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整え ている。	Δ	研修に参加しマニュアルを作成しているが日ごろからの訓練は行えていない。 普段から食事前には机の消毒を行うようにしている。				
36	感染症予防と対応	С	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等 を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症 発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	0	今回のコロナ感染もありテレビやネットから情報 を得て共有し、マスクなどの備品の予備を確保 出来るようにしていた。 県から送られてくる情報 も職員に回覧するようにしている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の 流行に随時対応している。	0	他の部署の職員・訪問看護・医師などから住んでいる地域の情報を共有出来るようにしている。				
		е	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用 者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援し ている。	0	感染症の危険があるときは手洗いうがいを 徹底しマスク着用をし、来客にもお願いして いる。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.第	族との支え合い	Н			·				
		а	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒 衰楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いて いる。	0	来所持、電話対応時などに日ごろの様子や 体調について伝えたり、相談をしている。 体調面など日ごろの様子が著しく変化した際に は一緒に支援してもらえるようお願いしている。				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気 づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再 構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしや すさ等)	0	フロアや個人の部屋など整理整頓に気を付けている。家族来所持には挨拶をし笑顔で迎えれるようにしている。				
		С	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機 会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	Δ	事業所全体で家族が参加するイベントは少ない が夕涼み会などあるときは出来るだけ家族にも 参加してもらえるよう声をかけている。	0		Δ	毎年、法人で行う夕涼み会に案内している。今年度は COVID-19膨柴予防のため中止し、替わりに9月に家 族を案内して、「ミニ縁日」を行う予定となっている。 毎月、行事や暮らしぶりの写真を載せた便りを送付し
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用 者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「た より」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	0	毎月ホームで便りを作り近況を知らせるお手紙 と一緒に外出時や普段の様子を撮影した写真 を送付している。	0		0	時が、11年で暮らしかりの子臭を載せたほうと近りとて報告している。 利用者の日頃の様子や健康状態は、個別の現状 シート(食事・排泄・清潔・移動・睡眠・コミュニケーショ シなど)に記入して報告している。
37		е	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	0	電話や来所持には笑顔で対応し何でも聞きや すいような雰囲気を作れるようにしている。 また、こちらから話を持ち掛けるなど話を しやすいよう気を付けている。				GOVID-19感染予防により面会制限があるため、SNS で動画(歩行練習する様子などを送り、やり取りをし ているケースがある。その他の家族にも、SNSでやり とりできるようにしていく予定である。
07		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	0	加齢や認知症の進行に伴う変化に戸惑われる 家族さんもいるため、理解が得られるように 説明をしっかり行うようにしている。				
	本人をともに支え合う家族との 関係づくりと支援	g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告 し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改 修、機器の導入、職員の異動・退職等)	Δ	家族・利用者に関する必須事項のみ報告をして いる。スタッフの移動・退職に関して積極的に 伝えていないが聞かれた際には答えている。	Δ		Δ	行事については、たよりや運営推進会議時に報告しているが、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等についての報告は行っていない。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供 している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	Δ	家族同士が交流を持てるような機会は作れて いない。他の家族と顔を合わせることがあっても 挨拶程度で話し合われることはない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に 説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し 合っている。	0	入所時には団体生活をする上でのリスクなどの 脱明を行っている。また、生活上での予測され るメリットやデメリットを脱明している。				をなったけには、英田本人は第二代も日本のででお
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽 に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや 定期的な連絡等を積極的に行っている。	0	職員は笑顔で対応し話しやすい雰囲気づくりに 気を付けている。また、話をしやすいように職員 から声をかけ話をすることもある。			0	家族来訪時には、管理者や職員が利用者の近況報告を行い、意見や希望を聞いている。 玄関には、職員の名前と顧写真を貼っている。
		а	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説 明を行い、理解、納得を得ている。	0	入所時・途中変更、追加事項等は管理者より 全員に連絡し了解を得ている。				
38	契約に関する説明と納得	b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を 明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上 で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退 居事例がない場合は、その体制がある。	0	退去が必要になった時には現状の様子や理由 を家族の方に説明している。家族の要望、移行 をもとに移転先などの相談に乗っている。				
		С	契約時及び料金改定時には、料金の内駅を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	0	金銭関係に関しては管理者から文面で説明し 同意を得ている。				
皿.地	域との支え合い					_			
		а	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつく り、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図って いる。	0	町内会や隣近所に挨拶に行き、事業所の 説明を行って理解を得る働きかけを行った。		0		昨年は、地域行事や公民館行事(文化祭・お祭りな
		ь	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりなが ら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して目頃から関 係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町 内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	0	地域の行事には参加・見学に行っている。 事業所の行事にも参加してもらえるように 声かけをしている。散歩などの外出時には 必ず挨拶し会話できるように心がけている。		0	0	と、日本語のであり、 (COVID-19感染予防のため今年度は中止) 散歩時には、近所の人に挨拶をしている。
		С	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増 えている。	Δ	散歩に出かけた時に挨拶をしたりお話をすることがある。 救急車が来た時など地域の方が 心配して声をかけてくれることもある。				
	地域とのつきあいやネットワー クづくり ※文言の説明	d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	以前は近所から入所した利用者の面会も あったが高齢になった為尋ねてくることは なくなった。				
	地域:事業所が所在する市町 の日常生活圏域、自治会エリア	е	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち 寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	Δ	朝夕、会った時に挨拶をしたり雑談したりする 時もある。月に1度、清掃のボランティア活動を 行っている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡が りや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを 行っている。(日常的な活動の支援、適出、行事等の 支援)	Δ	近隣の行事に参加した際には地域の方に 車椅子を押して頂くなどお願いする事もある。				
		gg	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	Δ	施設の近くに遊歩道がありそこに散歩に出かけている。以前は自治会館で行われていたPPK体操にも参加していたが利用者の体調面などから参加出来ていない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り 組みを行っている(公長館、南店・ス・バー・コンピニ、飲食店、 理業容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	0	公民館や地域の小学校、施設と定期的に交流 している。				

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価		家族評価	地域 評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	0	地域の方の参加は毎回出来ている。 家族の方には呼びかけをし、参加してくれる 家族もいる。来られなかった家族には使用した 資料を配布している。	0		Δ	会議は、系列事業所と合同で開催しており、利用者は 事業所で会議を行う時のみに参加している。 家族や地域の人は毎回、参加している。 COVID-19感染予防のため、4月は職員のみで開催
		b 達 い	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標 選成計画の内容と取り組み状況等)について報告して いる。	0	利用者の近況報告は運営推進会議の際行って いる。サービス内容評価への取り組みも状況を 報告している。			0	し、会議メンバーには、報告書で報告した。(6月より通 常開催) 利用者の近況報告を行っている。 外部評価結果や目標達成計画は、みてもらいながら
40	運営推進会議を活かした取組み	c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終 わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組 みやサービス向上に活かし、その状況や結果等につい で報告している。	0	地域の方や市役所の方からの意見も聞き参考にしている。		0	0	報告した。 6月の会議時には、初めて看取り支援に取り組んだこ とを報告した。会議メンバーより「本人の思いを把握す るためにエンディングノートを活用してみては」などと
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	Δ	来所持にて声掛けを行ったり、お便りにて参加を促している。日中に開催することがほとんどである。家族の方には時間調整が可能な方が参加してくれている。		0		提案があり、今後、検討していく予定である。
		е	運営推進会議の議事録を公表している。	0	会議の記録は家族の方にも毎月の便りと一緒 に添付して送っている				
IV.J	り良い支援を行うための運営体	制				_	_		
	理念の共有と実践	а	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を つくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共 通認臓を持ち、日々の実践が理念に基づいたものにな るよう日常的に取り組んでいる。	0	毎朝朝礼に参加しているスタッフが理念を 読み上げ共有できるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく 伝えている。	0	フロアに信条・理念を掲示している。 朝礼時には利用者も一緒に読み上げられて いる。	0	0		
	職員を育てる取り組み	а	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	0	東予研修や実践者研修には出来るだけ多くの スタップが参加出来るようにし、受講後は ユニット会などで発表の場を作っている。				
	※文言の説明 代表者:基本的には運営してい る法人の代表者であり、理事長 や代表取締役が該当するが、	b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	0	実務をしながら受講履歴のない職員には初任 者研修や実務者研修を勧めている。				
42	法人の規模によって、理事長や 代表取締役をその法人の地域 密着型サービス部門の代表者 として扱うのは合理的ではない と判断される場合、当該部門の	С	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自 が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の登備に 努めている。 伊事業社修理をか野島が同業を上述する場合をかり	0	管理者は事務仕事だけでなく現場の仕事も見て 職員と接している。賞与などがある時期には 面談を行い対話を行っている給与面に関しては 処遇改善加算等で毎年上昇している。				
	を付えています。 当然的 100 責任者などを代表者として差し 支えない。したがって、指定申 請書に記載する代表者と異なる ことはありうる。	d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、 ネットワークづくりや敵強会、相互研修をどの活動を通して 職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者 団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参 加)	0	出来る限り研修や勉強会に参加し交流が 持てるようにしている。				
		•	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための 工夫や環境づくりに取り組んでいる。	0	相談などがあれば個別に話を聞き対応して いる。ストレスチェックも年1回行っている。	0	0	0	年1回、ストレスチェックを受け、必要者は医師のカウンセリングを受けるしくみがある。
		а	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にど のような行為なのかを理解している。	0	虐待に関する研修に参加し、勉強会も開いている。 虐待についてまとめた資料を事務所に置い ている。				
43	虐待防止の徹底	b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	0	ブランの変更時以外にも状態の変化があった時などは話し合いを行っている。自己評価、個人面談にて話し合い確認している。				職員は、不適切なケアを発見した場合、「管理者に報
		С	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を 発見した場合の対応方法や手順について知っている。	0	お互いに注意を払い、管理者は必要に応じて スタッフと面談し話し合いを行っている。				告して、その日の勤務者で話し合う」ことと認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	0	職員の負担にならないような勤務を作り、 何かあれば話を聞いている。				
		а	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の 対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」 とは何かについて正しく理解している。	0	研修に参加しスタッフ間で知識を共有できる ようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組 み	b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	0	身体拘束に関し研修・勉強会にて理解し 確認している。				
		С	家族等から拘束や肺錠の要望があっても、その弊害に ついて説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取 り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねな がら理解を図っている。	0	状況に応じて家族の方と話し合いを行い、 会社としての方針と家族の意向を照らし 合わせている。				
		а	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	0	研修を受けたスタッフより報告を聞いたり 研修資料で確認を行っている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の 違いや利点なども含め、バンフレット等で情報提供した り、相談にのる等の支援を行っている。	0	管理者が中心に情報提供や相談など行って いる。				
		С	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	0	包括支援センターや司法書士との連携・相談は 行えている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価		家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	急変や事故発生時の備え・事 故防止の取り組み	а	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の 急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、 周知している。	Δ	緊急時のマニュアルは事務所に掲示しているが 見やすい場所にあるとは言えない。 消防訓練などは行っているがその他の訓練は できていない。				
46		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に 行い、実践力を身に付けている。	Δ	消防による教急措置についての研修は参加し、 後日他の職員に説明しながら練習をしている。 その時以外では訓練を行っていない。				
40		С	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の 一歩手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員 間で検討するなど再発防止に努めている。	0	日頃より事故防止の為意見交換を行ったり 再発防止の策を対応するようにしている。 ヒヤリハットを活用し会議で周知徹底している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険 について検討し、事故防止に取り組んでいる。	0	夜間やその日の日中の様子を申し送りを行い 事故が起きないように心がけている。 注意事項を全員が確認、把握できるように している。				
	苦情への迅速な対応と改善の 取り組み	а	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解 し、適宜対応方法について検討している。	Δ	マニュアルを作成し他のファイルと一緒にまとめているがどこにあるか分かりにくいことがある。				
47		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	0	苦情に対しては誠意をもって対応し上司への 報告、スタッフにもどのような苦情があったのか 連絡し同じことが起きないように注意している。				
		С	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答すると ともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得 ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	0	個人的に意見を聞き苦情を照らし合わせ、 スタッフにも話を聞き対応や考えに齟齬が ないかを確認している。				
	運営に関する意見の反映	а	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訳く機会等)	0	ロ頭で伝えられる場合はその方の話に耳を 傾け対応しており、伝えるのが難しい場合は 日常の中でその方が嫌な思いをしていないか 表情などを観察するようにしている。			Δ	運営推進会議に参加する利用者は機会がある。 介護相談員が2ヶ月に1回、利用者の話を聞いている が、意見や苦情はないようだ。職員が個別に聞くよう なこともあるようだが、機会は少ない。
		ь	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訳く機会等)	0	来訪時に何でも話せる雰囲気作りに力を 入れている。職員が慌ただしくせず話しかけ やすいように気を付けている。	0		0	運営推進会議に参加する家族は機会がある。 電話連絡時や面会時には、「何かあれば言って欲し い」と伝えている。
48		С	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	Δ	窓口ではないが来所者が意見を伝えられる 意見箱は設置してる。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接間く機会をつくっている。	0	類回ではないが訪問時には困り事の相談など 聞いてくれている。				
		•	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営 について検討している。	0	毎月ユニット会を開きその場でスタッフの意見を 聞き支援について話し合いをしている。			0	管理者は、日々の中で、職員の意見や提案を聞いている。また、年3回、職員と面談を行っている。
	サービス評価の取り組み	а	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的 を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでい る。	Δ	ケアプランについてはモニタリングを毎日行い 月1回評価をしている。又、ホームのサービス 評価については外部評価の際に全員で行って いるが、年1回以上は出来ていない。				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとと もに、意識統一や学習の機会として活かしている。	0	外部評価の機会にスタッフ全員で自己評価を 行うことで設問の内容を話し合う機会を持って いる。				
49		С	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現 可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業 所全体で取り組んでいる。	0	評価の結果から今後の課題を確認し目標として 計画に取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援セン ター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後 の取り組みのモニターをしてもらっている。	Δ	運営推進会議にて結果を報告しているが 取り組みについてモニターを頂くまでには 至っていない。	0	0	Δ	外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果や 目標達成計画をみてもらいながら報告している。 モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		е	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲 げた取り組みの成果を確認している。	0	ユニット会にて状況報告を行い話し合っている。				
	災害への備え	а	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアル を作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、 原子力災害等)	0	マニュアルを作成し事務所内に掲示している。				_
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	0	年2回消防署による訓練を行っている。 訓練ではその時に応じ夜間想定、日中想定の どちらかで行っている。訓練後に消防の方の 講評を聞き改善すべき点を再認識している。				
50		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	0	チェック表を基に賞味期限、設置場所・設備等メンテナンス、非常ロ、鍵等の確認及び点検を 定期的に行っている。				校区の防災訓練(昨年10月)時には、職員と利用者
		•	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	0	消防署、近隣の他事業所と連携し定期的に 避難訓練を行っている。	Δ	0	0	数人で参加した。 近隣の複合施設(他法人)と協定を取り交わし、相互 に避難訓練に参加し合い(COVID-19感染予防のため 現在は中止)協力体制を確保している。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共 同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・ 市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所 等)	0	地域で行われる防災訓練には利用者の方と 一緒に参加している。				さらに、運営推進会議時などを活かして、地域の人達 や家族と防災について話し合う機会をつくってみては とうか。

項目 No.	評価項目	小項日	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
	地域のケア拠点としての機能	а	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活か して地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んで いる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養 成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	· ·	広報活動や介護教室の開催などは行えて いない。				
		ь	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。		入居相談に来られた方に介護相談の案内及び 見学対応は行っているが地域の方の相談支援 は行えていない。		0	Δ	見学者の相談を受けることがあるが、さらに今後は、 地域のケア拠点として相談支援を行うような取り組み に工夫してほしい。
51			地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	0	同事業所内でボランティアの方や地域の 方の芸能の発表会を行う場を設けている。 サロンとしての施設の提供までには至って いない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や 研修事業等の実習の受け入れに協力している。	0	介護実習の受け入れや、中学生の職場体験 など受け入れている。				高校生の職場見学を受け入れているが、今後はさら
		0	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	0	地域の活動には出来るだけ参加するようにして いる。				に、地域活動を協働しながら行うような取り組みに工 大してほしい。